



アゼルバイジャン共和国 (Republic of Azerbaijan)



- アゼルバイジャンへの援助総額は2014年度までに有償資金協力:1,011.62億円、無償資金協力:9.575億円。
- アゼルバイジャンは、独立直後の混乱やナゴルノ・カラバフ紛争による困難を抱えつつも、近年豊富なエネルギー資源を活用して、飛躍的に発展。日本は、独立直後より、同国の安定的な発展及び生活水準向上のため、その基礎となるインフラ整備や社会サービスの改善を支援してきた。

国概要

(基礎データ)

- 面積: 86,600平方キロメートル(日本の約3割)
 - 人口: 950万人(2014年, 国連人口基金)
 - 首都: バクー(首都圏人口219万人)
 - 民族: アゼルバイジャン人が約90%。他、レズギン人、ロシア人、アルメニア人、タリシュ人など
 - 言語: 公用語はアゼルバイジャン語(トルコ語、ロシア語もよく通じる)
 - 宗教: イスラム教が90%以上(シーア派が優勢)
 - 政体: 共和制(大統領の権限が非常に強い)
 - 議会: 一院制(125議席, 任期5年)
 - GDP: 530.47億ドル(2015年, 世界銀行)
 - GDP: 一人あたり 5,496ドル(2015年, 世界銀行)
 - 経済成長率: 1.1%(2015年, マト算出)
 - 失業率: 6.0%(2014年, IMF)
- ※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

紀元前4世紀	拜火教を信仰する民族が居住
7-10世紀	イスラム帝国の支配
11世紀	セルジューク朝トルコの支配下に入る(コーカサスのトルコ化、イスラム化が進む)
15-19世紀	イラン諸王朝の支配(シーア派受容進む)
1828年	露・トルコ間でトルコマンチャイ条約締結(現在のアゼルバイジャン領はロシア帝国に併合, アゼルバイジャン人はロシア領とイラン領に分断)
1918年	ロシア革命を機にアゼルバイジャン民主共和国が独立(1920年, 赤軍のバクー占領により滅亡)
1922年	ソ連邦に併合
1991年	ソ連より独立宣言

援助実績(E/Nベース)

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
円借款	1,011.62億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	95.75億円 (2014年度末時点)
技術協力	36.80億円 (2014年度末時点)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注)青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

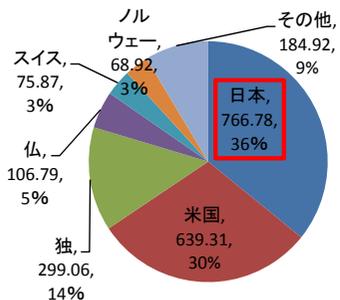
経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からアゼルバイジャンへの輸出	123.3億円 (2015年, 財務省統計)
アゼルバイジャンから日本への輸出	1.3億円 (2015年, 財務省統計)
在アゼルバイジャン日系企業数	5社 (2016年5月, 外務省統計)
日アゼル経済合同委員会	これまで8回開催 (直近では2014年2月)

人的つながり

項目	人数(直近年)
アゼルバイジャンにおける在留邦人数	41人 (2016年4月時点, 外務省統計)
在日アゼルバイジャン人数	68人 (2015年6月, 法務省統計)
日本からアゼルバイジャンへの留学生数	2名 (2015年, 独JASSO調査)
アゼルバイジャンから日本への留学生数	21名 (2015年5月時点(独)JASSO調査)

アゼルバイジャンへの主要ODA供与国 (1992年～2014年累積, 出典: OECD/DAC) (単位: 百万ドル)



日本とアゼルバイジャン共和国との協力年表

年代	案件
1991年12月	日本がアゼルバイジャンを国家承認
1992年9月	外交関係樹立
1996年	カスピ海沖ACG油田開発(1994年開始)に伊藤忠商事が参加(現在の権益比率4.3%)
1998年2月	ヘイダル・アリエフ大統領が訪日、橋本総理との間で、「日本国とアゼルバイジャン共和国との間の友好とパートナーシップに関する共同声明」を署名
1998年	円借款「セヴェルナヤ・ガス火力複合発電所計画」(206.99億円, アゼルバイジャンで最初の円借款事業)を実施
1999年	円借款「セヴェルナヤ・ガス火力複合発電所計画(第2期)」(183.32億円)を実施
1999年5月	高村外相がアゼルバイジャン訪問
2000年1月	在アゼルバイジャン日本大使館開設
2000年	バクー国立大学にアゼルバイジャン初となる日本語コースが開設 日本は、2002年度草の根文化無償資金協力により、LL機材を供与、また、国際交流基金から日本語教育専門家1名の派遣を継続中
2003年	INPEXがACG油田開発に参加(権益比率10.96%)
2005年	日本企業「(株)富士メガネ」がUNHCRとの協力により、難民・国内避難民に対する無償の視力支援ミッションを開始、ミッションの派遣は毎年行われ、これまでに計12回を数える
2005年	円借款「シマル・ガス火力複合発電所2号機建設計画」(292.80億円)を実施
2005年10月	駐日アゼルバイジャン大使館開設
2006年3月	イルハム・アリエフ現大統領夫妻が訪日、小泉総理との間で、「日本国とアゼルバイジャン共和国との間の友好とパートナーシップの一層の発展に関する共同声明」を署名
2006年	BTC石油パイプライン稼働開始(伊藤忠商事5.9%, INPEX2.5%の権益保有)
2007年6月	「GUAM+日本」初会合(於: バクー)
2009年6月	メメディアロフ外相が訪日
2009年	円借款「地方都市上下水道整備計画」(328.51億円)を実施
2013年11月	伊東市とイスマイリ地区が友好交流協定を締結
2015年	4月, アサドフ国会議長が訪日(参議院招聘) 5月, 麻生副総理兼財相がADB総会参加のため、アゼルバイジャンを訪問 8月, ハサノフ副首相が訪日 10月, 甘利経済再生担当大臣(日本アゼルバイジャン友好議連会長)がアゼルバイジャン訪問

訪日したヘイダル・アリエフ大統領と橋本総理



両プロジェクトにより完成したセヴェルナヤ火力複合発電所は、天然ガスを燃料とする高効率の火力発電所。燃料消費や排ガスを抑制しつつ首都バクーの電力の安定供給に貢献。

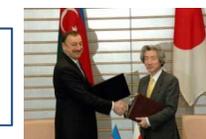
バクー国立大学で日本語を学ぶ学生達



ACG油田は近年のアゼルバイジャンの発展の原動力。同油田開発の契約は「世紀の契約」と呼ばれている。伊藤忠商事、NPEX両社は、欧州向け石油輸送用のBTCパイプライン(2006年稼働開始)にも投資。



訪日したイルハム・アリエフ大統領と小泉総理



「GUAM+日本」の枠組みにより、これまで、GUAM諸国の専門家を日本に招待するワークショップを計9回実施。テーマは、省エネ、投資・貿易促進、観光、防災、エネルギー安全保障、農業、医療、水管理、環境/破棄物処理と多岐に亘る。

日本関係のアゼルバイジャン訪問は16年ぶり。要人往来に関して、2015年は画期的な年となった。